

時代の变化に対応した栄典の授与に関する有識者懇談会（第3回）
議事要旨

■開催日時：平成28年4月18日(月)17:15～18:30

■開催場所：内閣府本府庁舎3階特別会議室

■出席有識者：

山下座長、奥山有識者、滝澤有識者、谷口有識者、名和田有識者、萩原有識者、牧原有識者

■政府側出席者：

酒井 内閣府大臣政務官、河内 内閣府大臣官房長、幸田 内閣府賞勲局長、武川 内閣府男女共同参画局長、川口 消費者庁次長

■議事次第：

- 1 女性の活躍・人目につきにくい分野について
- 2 各省から推薦されにくい功労について
- 3 見直し方策の方向性について

■議事概要：

1 女性の活躍・人目につきにくい分野について

資料1に基づき賞勲局長より、資料2に基づき内閣府男女共同参画局長より、それぞれ説明があり、有識者で議論。主な発言は以下のとおり。

- 女性の推薦枠を設けるのは良いことと思う。
- 女性関係の表彰について、10年後に調べたら引き続き活躍していたような方がいたら叙勲に結び付けていけると良いのではないか。
- 介護や保育の分野の人材に積極的に叙勲していくことは、時代の流れに合っており、適切。
- 保健師にも積極的に栄典を出してはどうか。
- 各分野に女性を増やしていくことと、男女共同参画の分野で貢献した人に積極的に叙勲していくことと。2つの視点を持つ必要がある。

2 各省から推薦されにくい功労について

資料3に基づき賞勲局長より、資料4に基づき消費者庁次長より、それぞれ説明があり、有識者で議論。主な発言は以下のとおり。

- 消費者庁の所管分野は地域でも認知されてきており、前向きに評価していったほうが良い。

- どの省庁も民間分野の推薦ゼロというのは避けたほうが良いように思う。
- 地域総合功労の仕組み、考え方はぜひ進めるべき。
- 地域総合功労の検討に当たり、地域情報をよく知っている地域のメディアにも協力してもらうのも一案ではないか。その他NPOセンターや民間の助成機関も色々と情報を持っている。

3 見直し方策の方向性について

資料5について、座長の指示を受けた事務局より説明があり、有識者で議論。主な発言は以下のとおり。

- 提言では、後になってどのような考えや狙いに基づいて今回の改革を行おうとしたのかわかるよう、改革の方向性の土台となる考え方を明らかにしたほうが良い。
- 併せて、平成15年の改革により何が達成できて、何が残っていたのか、という点も、きちんと書くべき。
- 外国人の数値目標は現在の倍となっており、野心的で良いと思う。
- 民間企業の経営者について、団体歴以外でも評価できる方針が出ることは喜ばしいことだと思う。
- 紺綬褒章の対象団体を拡大することは寄附文化の醸成につながり、時宜を得ている。
- 各分野で「前年より叙勲を増やさないといけない」という意識に変にとられないようにしてほしい。叙勲にふさわしい功績のある人に授与するという基本が大事。

以 上

注：本議事要旨は速報的に作成したものであり、
表現の正確性向上等のため、今後、修正される可能性があります。